



irori



発行

奥州市 地域づくり推進課

奥州市江刺大通り1番8号

0197-34-1618(直通)

～団体の活動紹介～



まちに価値を興し 紡いでいこう

2021年度
スローガン
おもいよこしま
なし

一般社団法人水沢青年会議所

一般社団法人水沢青年会議所は、地域の子どもたちの健全育成やこのまちに住んでよかったと思えるまちづくりを目指して、様々なイベントを行っている団体です。

現在、全国各地で活動を行っている青年会議所は1949年、戦後の混沌とした時代の中、責任感と情熱を持った青年有志らによって日本で初めて設立されました。その後、次々と青年会議所が各地に誕生し「明るい豊かな社会」の実現を目指して活動を展開してきました。水沢青年会議所は1963年、全国では229番目の青年会議所として誕生。20歳から40歳までの熱い志を持った会員が集まり、地域貢献活動や社会的課題解決に向けて取り組んでいます。

水沢青年会議所では、年度初めに新たに選出された理事長がスローガンを掲げ、会員全員がその思いを共有しながら、地域に根ざした活動を行っています。今年度のスローガンは「思い邪無し ～まちに価値を興し 紡いでいこう～」です。このスローガンは、素直な心で飾らずに自然体で人と接してほしいという意味です。活動に対する考え方は会員の数だけあり、人それぞれです。時には相手と意見がぶつかり物事が進まないこともあります。しかし、そういう時こそ意見が異なることを恐れず、積極的に議論を行うことが大切です。相手の考えを理解・尊重したうえで活動を展開し、地域に信頼される組織体制づくりを目指していきたいという強い思いが込められています。

今年度の事業としては、2月に「幻のスキー場 2021～ペガサスしようぜ!～」また6月には「奥州ビッグバンフェスタ」を開催しました。「幻のスキー場 2021～ペガサスしようぜ!～」は、新型コロナウイルス等の影響で外出する機会が減少した子どもたちに、楽しいひと時を提供しようと、水沢横町の旧ペガサス広場に巨大な幻のスキー場を造設しました。記録的な大雪で雪捨て場の確保は地域の大きな問題にもなりましたが、幻のスキー場を造ることで、残雪処理が子どもたちの楽しみに様変わりしたほか、保護者からは「奥州市の魅力を感じることができた」という声が寄せられました。「奥州ビッグバンフェスタ」は、地域住民に奥州市を好きになってほしいという思いで開催。市の魅力を発信しようと飲食店や企業に参加を呼びかけ、エール飯フェスタや働く車体験会など老若男女問わず誰でも楽しめるような内容となるよう工夫を凝らしました。このほか秋には「インディアン旗野球大会」を開催する予定です。この野球大会は、青少年の健全育成と地域コミュニティの活性化を図るために実施しており、現代の子どもたちの親や祖父母の世代から引き継がれ、60年を超えた伝統ある大会となっています。

このような事業を継続していくことで、地域から信頼・必要される活力あるまちづくりに今後も努めていきます。



奥州ビッグバンフェスタ
左) 子どもたちに人気の働く車体験会
右) エール飯フェスタ



幻のスキー場 2021～ペガサスしようぜ!～



●団体名 一般社団法人水沢青年会議所

●設立 1963年

●代表 佐藤 恒一

●趣旨 青年の英知と勇気と情熱を結集し、公益目的事業及びその他の事業を行い、青少年の健全育成や地域社会の健全な発展に貢献し、明るい豊かな社会の実現を図ることを目的とする。

～団体の活動紹介～

奥州キャラバンメイト・スマイル²連絡会



奥州キャラバンメイト・スマイル²連絡会は、認知症やその家族が住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、認知症の理解を広めるための啓発活動を行っている団体です。

会を設立する以前は、認知症を支援するための養成研修を受講したキャラバン・メイトらが、地元で認知症についての寸劇や講話等の活動を各々自主的に行っていました。意欲的に取り組むキャラバン・メイトらに奥州市地域包括支援センターが、協力体制を構築しながら認知症に対する正しい理解を地域にも広めていきたい思いで呼びかけたところ、賛同するメンバーが集まり活動をスタートさせました。活動を進めていくうちに、子どもから大人までが認知症に対する理解を深めるためには、地域に密着した取り組みが必要だと感じて、2012年に同会を設立し新たな気持ちで一步を踏み出しました。会の名前は、認知症の方や家族、介護に従事する方々も、皆笑顔で過ごせるように願いを込めて「スマイル²（スマイルスマイル）」と名付けました。

活動は、認知症の方やその家族を応援・支援する「認知症サポーター」を育成するため、「認知症サポーター養成講座」を実施しています。当初、養成講座は、講話を主に行っていましたが、受講者が楽しみながら学習できるように、今は講話のほかに寸劇を取り入れています。寸劇は、認知症のおじいさんやおばあさん役、家族役を演じ、日常生活の中でありがちな物忘れや時間がわからないなどの場面を用いて、受講者の笑いを誘うようなシナリオにしています。また、認知症の方にどのように接すればよいのか、好ましくない例と好ましい例を実演することで受講者は認知症の人との接し方を学ぶことができます。最近では、小学校や企業、金融機関などから幅広く依頼され、受講者に合わせた講座を開催しています。

県と連携して小中学生を対象とした「孫世代のための認知症講座」も行っており、今年度は、市内12校の小学校を訪問予定です。認知症は誰でもなりうる身近な病気であることを説明しながら、小学校低学年でもわかりやすく学習することができるように、会員が寸劇の中で解説を加えています。講座の最後には、認知症の方に接するときの心得として「おどろかせない」「いそがせない」「じそんしんをきずつけない」「おこらない」を垂れ幕に記し、認知症の方を大切にする心を育んでいます。

同会の認知症サポーター養成講座は、これまでに254件開催し、認知症サポーター数は、14,798人になりました。地域や企業、学校等が自分たちのできる範囲で認知症の方を手助けすることや認知症の家族を温かく見守る地域になるよう、地域に密着した取り組みを今後も継続していきます。

若造じいさん役とお嫁さん役。食事後も腹減ったなあ！と若造じいさん

講座終了後に、認知症サポーターカードが渡されます

認知症に接する心得「おどろかせない」「いそがせない」「じそんしんをきずつけない」「おこらない」



- 団体名 奥州キャラバンメイト・スマイル²連絡会 ●代表 石川 愛子 ●設立 2012年
- 趣 旨 認知症について理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する「認知症サポーター」を養成し、認知症に対する正しい知識と具体的な方法等を市民に伝え、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに資することを目的とする。

市民活動を対象とした助成金や、団体支援に関するセミナー等の情報は、奥州市地域づくり推進課フェイスブックで随時、更新しています。

検索は <https://www.facebook.com/oshu.shiminkatudo/>

編集後記 東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、令和3年度に限り3つの祝日が移動になりました。(7/22海の日、7/23スポーツの日、8/8山の日)計画するときご注意ください。